

今後の取り組み方針

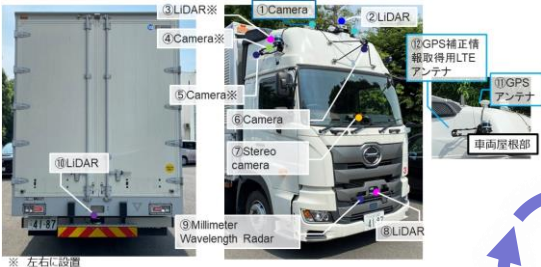
○2025年度目途50か所程度、2027年度100か所以上で自動運転移動サービスを実現※ すべく、令和5年(2023年)を交通モード間連携による「電動化・自動運転実装化元年」と位置付け、国土交通省一丸となって取り組みを進める。

※デジタル田園都市国家構想総合戦略(2022年12月閣議決定)

自動運転車の開発・実用化

- 「自動運転車両の開発」、「自動運転の導入支援」及び「道路インフラによる支援」に連携して取り組み、地域・関係者と一体となって自動運転による移動・物流サービスを実現
- 自動運転車の運行記録(経路や操作情報等)を収集し、自動運転車や路車協調システムの技術向上へ活用

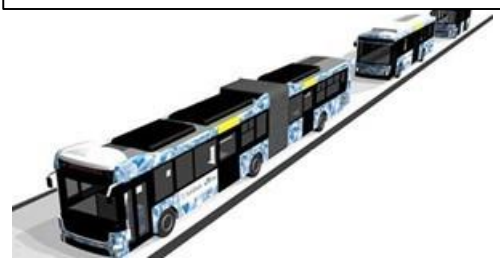
自動運転車両の開発



道路インフラによる支援 (路車協調システム)



自動運転の導入支援 (自動運転実証事業)



物流DXの推進

- 労働力不足や非接触・非対面型の物流に資する自動化・機械化の取組の推進

地域交通リ・デザインやMaaSの推進

- 交通DX等により、利便性・持続可能性・生産性が向上するよう地域交通をリ・デザイン(再構築)し、地域モビリティを確保。
- 地域交通において、自動運転やMaaSなど新技術の導入を推進

その他交通モードとの連携

- 新しい技術に対して地域や利用者の理解促進などの取り組みは、モードに共通するものであり、好取組事例、課題などを共有

